

## 日本海掘削試料から見た日本海盆底の細粒タービダイトの産出とテクトニクス

Late Neogene to Quaternary turbidite deposition in the northern Japan Basin and its relation to regional tectonics

\*池原 研<sup>1</sup>、入野 智久<sup>2</sup>、板木 拓也<sup>1</sup>

\*Ken Ikehara<sup>1</sup>, Tomohisa Irino<sup>2</sup>, Takuya Itaki<sup>1</sup>

1.産業技術総合研究所地質情報研究部門、2.北海道大学

1.Institute of Geology and Geoinformation, National Institute of Advanced Industrial Science and Technology, 2.Hokkaido University

IODP Expedition 346 Site U1422の下部には細粒タービダイトの産出が認められる。タービダイト部分では、長石が卓越し、日本側からの粒子供給が示唆される。タービダイトはコアの最下部である約4Maから約1.7Maまで確認でき、その後はみられない。サイトU1422の堆積速度はタービダイトの消滅後も段階的に減少する。これらは、日本海東縁の圧縮場への転換による奥尻海嶺の上昇とそのモード転換が関係している可能性がある。

キーワード：タービダイト、日本海東縁、テクトニクス

Keywords: turbidite, Eastern margin of Japan Sea, tectonics